

## スポーツ実施率の目標を定める文書(英国(イングランド、北アイルランド)、アイルランド、豪州、ニュージーランド)

2021年6月4日/JSC情報・国際部情報戦略課

文書	国名	英国(イングランド)	英国(北アイルランド)	アイルランド	豪州	ニュージーランド	オランダ
実施率の目標を定める文書	文書名	邦題	スポーツ・マター: 北アイルランドスポーツ・身体レクリエーション戦略 2009-2019	アイルランドをアクティブに! アイルランドナショナル身体活動計画	スポーツ2030	エブリバディ・アクティブ戦略プラン 2020-2024	スポーツアジェンダ2017+
		原題	Sporting Future: A New Strategy for an Active Nation	Sport Matters: The Northern Ireland Strategy for Sport and Physical Recreation, 2009-2019	Get Ireland Active! National Physical Activity Plan for Ireland	Sport 2030	Every Body Active: strategic plan 2020-2024
	発行年月日	2015年12月	2009年12月	2016年1月	2018年8月	2019年9月	2016年5月
	発行者・部局	英国政府(HM Government)	文化・芸術・レジャー省(Department of Culture, Arts and Leisure)	保健省	オーストラリア連邦政府	スポーツ・ニュージーランド(Sport NZ)	オランダオリンピック委員会・スポーツ連合(NOC*NSF)
	背景	○13年ぶりにスポーツ戦略を全面改訂し、スポーツの社会経済的価値を重視した方向に転換。 ○それに伴いスポーツ参加促進についても、競技スポーツの愛好者拡大を主旨とした従来の領域から、広く身体活動全般を視野に、未実施者を無くす取組に注力する。 ○コミュニティスポーツに関してはイングランドのみに適用されるが、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドも本戦略を参考とする。(注:英国における公衆衛生政策およびスポーツ参加促進政策は、ウェールズ・スコットランド・北アイルランドの各政府が主管する。ただし「イングランド政府」は存在しないため、英国政府の管轄)。	○ビジョン(生涯にわたってスポーツを楽しむ、スポーツで成功する文化)を追求し、政府のコミットメントを実現するために、一連の目標が設定された。 ○これらの目標は、前戦略期間(1997年~2005年)での進捗状況とスポーツを取り巻く環境の変化を考慮している。 ※参考: 現在、後継となる戦略を審議中	○本計画の全体目標は、ヘルシー・アイルランド(2013年から2025年までの健康・ウェルビーイング増進に向けた国の枠組み)の期間中、各ライフステージにおいて定期的な身体活動を行っている人口の割合を年率1%増加させること。 ○身体活動に関する国のガイドラインにて特定された各グループに対して、目標が設定されている。	○人生のあらゆる段階において、活動的であることが、身体的にも精神的にも良い効果があることは明らかであるにもかかわらず、国民はかつてないほど運動不足に陥っている。	○この戦略期間では、「タマリキ(5歳から11歳の子ども)」と「ランガタヒ(12歳から18歳の若者)」に焦点を当てている。その理由は、以下のとおり。 ・タマリキとランガタヒが体験することの質を向上させることで、彼らが生涯にわたって遊びや活動的なレクリエーション、スポーツに関わっていく可能性が高くなる。 ・タマリキとランガタヒの活動水準が低下し続ければ、その影響は彼らが年を取っても、また次の世代にも続く可能性が高い。 ・2015年から20年のコミュニティ・スポーツ戦略期間中に、タマリキとランガタヒに焦点を当てたことの効果を、まだ十分に実感できていない。 ・この年齢層に焦点を当てることで、資源を最大限に活用することができるが、一方で、システム全体では、幼児期や高齢者のニーズに引き続き対応していく。	○2016年までの戦略文書(Sport Agenda 2016)では、年間12回以上、「スポーツを実施する人々の割合を75%にする(目標発表当時の実施率は65%)」、「障がい者のスポーツ参加者を10%増やす」などを設定していた。 ○伝統的なスポーツ実施形態が変化している(スポーツクラブや大会等の組織化されたスポーツに参加せず、個人で実施)。 ○成人の多くが、民間のスポーツサービス提供者とともに、あるいは個人でスポーツを実施している。 ○スポーツ実施者の中には、スポーツサービスの品質や柔軟性、付加価値の向上を期待する者もいる。 ○本文書では、定量目標は示さず、定性的な「参加者の満足度を高める」という目標を設定した。
具体的な数値目標	○アウトプット1: より多くの人々がスポーツ・身体活動に参加する・スポーツ・身体活動への参加は、本戦略のすべてのアウトカムに寄与する。 KPI 1: 前月に2回以上、スポーツ・身体活動に参加した国民の割合の増加【Active Lives調査より】 KPI 2: 身体的に不活動な国民の割合の減少【Active Lives調査より】 KPI 3: 運動・健康目的で屋外スペースを利用する成人の割合の増加【MENE調査より】 KPI 4: フィジカルリテラシー水準を満たす子供の割合の増加【Taking Partより】 KPI 5: 水泳及び自転車の習熟度 1-3を達成する子供の割合の増加【Taking Partより】 KPI 6: スポーツや活動的になることに対して前向きな若者(11~18歳)の割合の増加【Taking Partより】	ターゲット ○参加 PA1: 2009年までに、英国のチーフメディカルオフィサーの推奨事項を認識した参加率測定のための改訂された調査枠組みの実施に同意し、開始する。 PA2: 2010年までに、北アイルランドにおけるスポーツ・身体的レクリエーションの経済的影響を検討する。 PA3: 2011年までに、最低2時間の質の高い体育に参加する義務教育年齢の子供の数のベースラインを確立する。 PA4: 2013年までに、スポーツ・身体的レクリエーションへの成人の参加の減少を止める。 PA5: 2014年までに、北アイルランドの人々の少なくとも1つのスポーツクラブの会員になる人の数を増やす。 PA6: 2014年までに、8歳以上の北アイルランドのすべての子供に、週に2時間以上の課外のスポーツ・身体的レクリエーションに参加する機会を提供する。 PA7: 2019年までに、成人のスポーツ・身体的レクリエーションへの参加率を少なくとも3%ポイント向上させる(2011年のベースラインから)。 PA8: 2019年までに、女性のスポーツ・身体的レクリエーションへの参加率を少なくとも6%ポイント向上させる(2011年のベースラインから)。 PA9: 2019年までに、社会経済的に恵まれないグループの人々のスポーツ・身体的レクリエーションへの参加率を少なくとも6%ポイント向上させる(2011年のベースラインから)。 PA10: 2019年までに、障がい者のスポーツ・身体的レクリエーションへの参加率を少なくとも6%ポイント増加させる(2011年のベースラインから)。 PA11: 2019年までに、高齢者のスポーツ・身体的レクリエーションへの参加が少なくとも6%ポイント増加させる(2011年のベースラインから)。	目標: 各ライフステージで定期的な身体活動を実施する人々の数を、年1%増加させる ○子供(0歳~18歳) ・毎日、中等度から高強度の身体活動を60分以上実施する子供の数を年1%増やす ・週にまったく身体活動を実施しない子供の割合を年0.5%減らす ○成人(18歳~64歳) ・中等度の身体活動を週に150分、または高強度の身体活動を75分、あるいはそれに相当する身体活動を実施する成人の数を年1%増やす ・週にまったく身体活動を実施しない成人の割合を年0.5%減らす ○高齢者(65歳~) ・中等度の有酸素運動を週に150分、または高強度の有酸素運動を週に75分、あるいはそれに相当する身体活動を実施する高齢者の数を年1%増やす ・週にまったく身体活動を実施しない高齢者の割合を年0.5%減らす	■参加 小児から高齢者に至るまで、より多くのオーストラリア国民がスポーツや身体活動に関わり、人々やコミュニティを結びつけ、社会的共生(ソーシャル・インクルージョン)の機会を提供するための施設を提供する。 目標: 2030年までに、毎週中等度から高強度の活動に150分以上参加するオーストラリア人を15%以上増やす。	2020年から2032年までの戦略的方向性 ・すべてのニュージーランド人が、遊び、活動的なレクリエーション、スポーツを通じて身体的に活動的になる ・性別や障がい、民族性、性的指向、またはニュージーランドの居住地に関わらず、誰もが、遊び、活動的なレクリエーション、スポーツのメリットを逃さない。 ・すべてのニュージーランド人が、自宅や近所、コミュニティで質の高い体験にアクセスできる。 ・コミュニティは、協働し、アイデアを生み出し、すべてのニュージーランド人が活動的になる機会を創出・促進する。  2020年から2024年までの戦略計画 ○領域1 ・2020年から2024年において、タマリキ(5歳から11歳の子供)とランガタヒ(12歳から18歳の若者)の活動水準の向上。 一領域1に対して、長期的なシステム変更と合わせて、重点的取り組みのバランスをとる。 ○領域2 ・活動性の低いタマリキとランガタヒの活動水準の向上。 一領域2に対して、活動水準が大きく低下しているコミュニティを優先する。 ○領域3 ・領域1・2を達成するために、我々とこの部門が、システムに影響を及ぼす上で効果的である必要がある。2020年から2024年における領域3は、タマリキとランガタヒに関連する活動のシステムを含む。我々は、彼らを支援するため、遊び、活動的なレクリエーション、スポーツのシステムのすべてのレベルで、良質で信念を持って行動を特定し、組み込む必要がある。 ・我々は、システムのカイティアキ(守護者)として、その強さと持続可能性を確保するためのより広い責任を負う。インテグリティ、多様性・包摂性、研究、報告、振り返りなどのシステム全体の問題に焦点を当て、これを行う。これは、「システムの長期的な成果」と大臣への政策的助言になる。 ・我々はまた、ハイパフォーマンススポーツ・ニュージーランド(HPSNZ)がこの戦略的成果を達成できるように支援する必要がある。		

## 上表の作成について

- 以下の諸外国等を対象として、スポーツ政策枠組み及び評価指標(KPI)についてオープンソース調査を実施(2021年3月)。その中で、スポーツ実施率の目標に関わる記載のあったもの本表にまとめた。  
 <調査対象国等: 英国(イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランド)、豪州、ニュージーランド、カナダ、フランス、アイルランド、ニューサウスウェールズ州(豪州)、スイス、シンガポール、欧州連合>